

開教区

って何？

海の内外へだてなく

海外にも、真宗大谷派の寺院があることはご存知ですか？

海外の「開教区」で、その国の方々と共に親鸞聖人の教えを聞法するのが「開教使」です。

今回はその募集にあわせて、開教使の活動と、南米・北米・ハワイの三つの開教区について、ご紹介します。

海外開教区について

今から百数十年前、明治新政府によって移民が許可されて以降、日本各地から多くの人々が、新天地を求めて海を渡りました。

言葉や文化の異なる新たな土地での生活は、その日を生きているだけで精一杯でした。

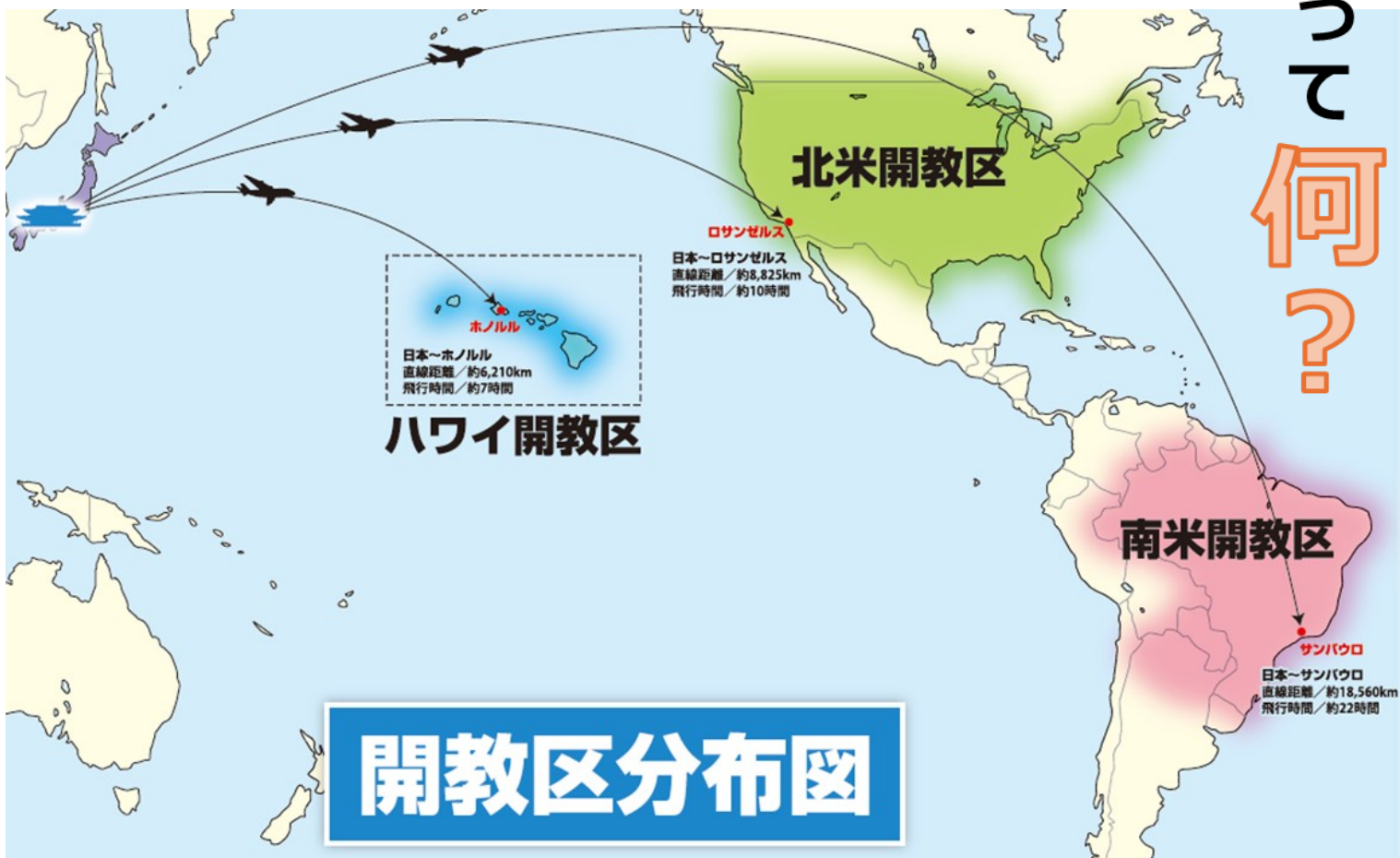
しかし、海を渡った人々は念仏の教えを確かめ合う場を求め、共にあい集う場所として、その地に寺院を建立していったのです。

時を経て、寺院を取り巻く状況は大きく変化し、今では、その国で生まれ、現地の言葉や文化で育った世代が中心を担いつつあります。

今日の海外の真宗寺院は、海を渡った先人に始まり、そして今日まで念仏の教えを受け継いできた Dobo (同朋) によって支えられてきたのです。

海外寺院の活動

開教区には、別院を中心に開教寺院や布教所が置かれ、日曜(土曜)礼拝や、法事・葬儀が勤められています。お勤めの後には、法話が現地の言葉で行わ



れます。仏教、特に日本仏教がマイノリティーである海外では、親戚や知人の法事や葬儀などを通じ初めて仏教にふれるきっかけとなることが多いです。

また、移民と共に海を渡った日本文化は、今では非日系の方々にも広く浸透しており、寺院では餅つきなどの年中行事をはじめ、日本文化のクラスも行

われています。

その運営はバザー等の催しでの収益によって賄われていることも多く、地域社会と密接に結びついているのが海外のお寺の特徴です。中でも「BON DANCE (盆踊り)」は盛大に開催され、大谷派に限らず日本の仏教寺院を象徴する行事となっています。

南米 開教区

ブラジル・
パラグアイ・アルゼンチン

— 南米大陸の国々 —

ブラジルインフォメーション

正式国名：ブラジル連邦共和国 面積：851万5,767km² 人口：2億1,200万人（2024年） 首都：ブラジリア

民族：白人系47.7%、混血系43.1%、アフリカ系7.6%、アジア系1.1%、ブラジル先住民0.4%

言語：ポルトガル語

宗教：大部分がローマ・カトリック。他にプロテスタントやユダヤ教、アフリカ民族宗教等

通貨：レアル（1レアル＝約29円 2025年12月現在） 時差：マイナス12時間

（サンパウロ等。ただしサマータイムあり）

南米大陸の約半分を占めるのがブラジルです。広大な国土は東西南北に広がり、面積は日本の23倍、ロシア・カナダ・中国・アメリカに続き、世界第5位という広大な国土は、赤道直下から南へ、そして東西へ大きく広がっています。

その広さ故、気候も南北で大きく違います。アマゾン河流域など、北へ行くほど赤道が近くなるため熱帯雨林に覆われた人跡未踏の地域が広がり、反対に南へ行くほど涼しくなります。まさに日本とは正反対です。

人種構成は、白人系47%、混血系43%、アフリカ系7.6%、アジア系他1%と言われていますが、正確な割合はわかりません。古くから先住民と多人種が混血を重ねてきたことに加え、ポルトガル人、イタリア人、ドイツ人、日本人、アラブなど多くの移民を受け入れてきたことにより、今では人種構成を調べるのが無意味とさえ言えるでしょう。むしろ、この多様性こそが今のブラジルをはじめとした南米の国々のパワーを作り出しているのではないのでしょうか。

アマゾンの熱帯雨林に囲まれたマナウスに、近未来的な人工都市が自慢の首都ブラジリアに、イグアスの大瀑布にほど近いパラグアイの町に、アルゼンチンタンゴ発祥の地であるブエノスアイレスに、そして南米最大の都市サンパウロに。海外で一番寺院が多く存在するのは、この南米の地です。



アマゾン河の夕暮れ



国境の町



イグアスの滝

ブラジル・アルゼンチン・パラグアイの国境に位置する世界3大瀑布のひとつ。尽きることの無い水が、全長4キロ、落差80m、約300もの滝となって轟音とともに流れ落ちる。

サントス

コーヒーの輸出港として発展した、ブラジル最大の貿易都市。1908年、日本からの移民船笠戸丸はこの港につき、移民達は初めてブラジルの土地を踏んだ。日本移民史に欠かすことのできない都市。



日本移民上陸記念像

アマゾン河流域

ブラジル、ペルー、ボリビア等5か国にまたがり、流域面積は650 Km²と世界一を誇る。熱帯雨林に広がる流域には、ピラニアやピラルクだけでなく、リスザルやナマケモノ等の動物が生息している。中流のマナウス、河口のベレンといった都市が有名。

サンパウロ

人口1,100万人を誇る、南米最大の都市。ブラジル国民総生産の50%を生み出すブラジル経済の中心都市。



サンパウロの大聖堂

ブラジリア

ブラジル連邦共和国の首都。オスカー・ニーマイヤー、ルシオ・コスタの設計による近代都市。徹底した計画都市として、国会議事堂、最高裁判所、大統領府等がアーティスティックに立ち並ぶ。



大統領府

リオ・デ・ジャネイロ

毎年2月頃に開催される「リオのカーニバル」で有名なブラジル第2の都市。華やかなビーチリゾートと、サンバやボサノバの発祥地としても有名。2016年オリンピック開催予定地。



コルコバードの丘

リオのカーニバル

ブラジル別院南米本願寺

ブラジルにおける仏教の歴史は、1908（明治27）年の第1回日本移民とともにスタートしました。日本移民の移住初期から本門仏立宗、真言宗、浄土真宗本願寺派の各派による非公式な布教活動があり、サンパウロ州内の日本人集団地に仏教寺院が建立されていきました。しかし、第2次世界大戦により、日本とブラジルとの国交が断絶され、活動は停止せざるを得なくなります。

終戦直後のブラジル日系人社会では、情報不足から日本の敗戦を受け入れる「負け組」と日本の勝利を信じる「勝ち組」に別れての紛争が日系人集団地の各地で起こり、殺人事件にまで発展していました。この紛争を終結に導くため、日系人社会からの要望で当時の大谷光暢門首（当時は法主）と智子裏方夫妻がリオデジャネイロに到着、真宗大谷派の南米開教宣言を行い、4ヵ月間南米各地を巡回しました。これが南米開教区の始まりであり、以来各地に仏教会が結成され、寺院へと発展していきます。

ブラジル別院南米本願寺は、サンパウロ南米本願寺として1955（昭和30）年、現在地を購入して仮本堂落成、1962（昭和37）年に本堂が落慶して、1972（昭和47）年に別院に昇格します。その後、鐘楼・会館等が整備され、1979（昭和54）年に開設されたマユーリ幼稚園には日本語教室も併設され、現在も多くの児童が学んでいます。

また、1980（昭和55）年に別院に設置された南米真宗教学研究所は、南米唯一の仏教専門研究所として経典と聖教の翻訳事業を中心に、ポルトガル語の声明本、教化冊子の作成、仏教学院や市民仏教講座の開催とその講義録の出版等、ポルトガル語の開教活動の要になっています。

南米最大都市サンパウロ唯一の大谷派寺院として、地元に着した教化を展開するというブラジル別院の果たす役割は依然として大きいものです。同時に、「今や移民のためだけの寺院としての役割を終え、開教寺院として生まれかわる時期だ」という問題提起に応えるべく、南米開教の中心として、大陸に散在する門徒だけでなく、国や民族を超えて真宗に心を寄せる人々の願いに呼応する、新たな別院の歩みが始まっています。

その他の寺院については[こちら](#)をご参照ください。



人々に賑わう往時のブラジル別院



法要の様子



ブラジル別院での帰敬式の様子

南米開教区のあゆみ

- | | | | |
|-------|---------------------------------------------------------------|-------|--------------------------------------------------------|
| 1950年 | アサイ照真寺建立
マリリア真宗寺建立 | 1961年 | ツッパン南米本願寺建立 |
| 1952年 | 大谷光暢前門首が渡伯し、サンパウロにおいて南米開教を宣言する
アブカラナ信徒会・婦人会発足（現アブカラナ南米本願寺） | 1962年 | モジ・ダス・クルーゼス布教所開設
ブラジル別院南米本願寺建立 |
| 1953年 | ロンドリーナ南米本願寺建立 | 1963年 | バストス南米本願寺建立 |
| 1954年 | アラサツバ仏教会・婦人会発足（現アラサツバ南米本願寺）
ノーバ・エスペランサ南米本願寺建立 | 1965年 | イラブルー総合仏教会寺院建立 |
| 1956年 | ゲインベ仏教会発足
バストス仏教会・婦人会発足（現バストス南米本願寺）
プレジデンテ・ブルデンテ南米本願寺建立 | 1967年 | ソロカバ仏教会発足 |
| 1958年 | パウルー地区布教開始（現パウルー南米本願寺）
マナウス布教所開設（現マナウス真教寺）
マリンガ南米本願寺建立 | 1968年 | シアノルテ南米本願寺建立 |
| 1960年 | 奥パウリスタ南米本願寺建立
ブラジリア仏教会発足（現ブラジリア南米本願寺） | 1972年 | 聖州東北南米本願寺建立 |
| | | 1973年 | パラグアイ仏教会発足 |
| | | 1977年 | カンピーナス南米本願寺建立 |
| | | 1984年 | カンボ・グランデで聞法会発足（現カンボ・グランデ南米本願寺） |
| | | 1988年 | 南伯仏教会発足 |
| | | 1992年 | スザノ・セントラル南米本願寺建立 |
| | | 2012年 | 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌並びに真宗大谷派南米開教六十周年、併せて大谷暢裕開教司教就任記念讃仰の集い 開催 |

北米 開教区

ロサンゼルス・パークレー等
アメリカ西海岸からシカゴ、
そしてニューヨークへ

北米大陸の中でも太平洋岸に位置するカリフォルニア州は、南北に1,300km²、東西400km²と南北に細長く、単純に陸地面積で比較すると、日本の国土がすっぽり入ってしまいます。中でもロサンゼルス市を中心とする広域都市圏は、年間を通じて快適な気候に恵まれ、北はシェラネバダ山脈

につながる山稜、東に砂漠、南西には多くのヨットハーバーやサンタモニカ、ベニスビーチといったビーチが続き、青く澄み渡る空や海を求めて多くの人を訪れます。また、ハリウッドやビバリーヒルズ、ユニバーサルスタジオ等が位置する映画・レジャー産業の中心として全世界に強い発信力を持つだけでなく、アメリカ西海岸最大の金融・ビジネスの拠点でもあります。ロサンゼルス市の人口だけで約390万人（全米第2位）、郡部を含めると1,001万人で、ニューヨークと並んで全米最大級の都市圏です。

古くから労働力としてアジア系移民を多く受け入れたこの地域。現在も7万人の在留日本人（ロサンゼルス郡・オレンジ郡合計）と、29万人の日系人が生活しており、日本からの進出企業も優に1,000を超えています。日本とロサンゼルスとの関係は、我々が普段感じている以上に深いと言えるでしょう。

北米大陸における大谷派の歩みは、1904年にロサンゼルス別院の前身となる羅府仏教会が、ダウントウンのリトルトーキョーに設立されたことに始まります。以降、羅府仏教会はこの北米最大の日本人街が日系人の中心地として発展するのにあわせて規模を拡大させていきます。また、ロサンゼルスの北方、サンフランシスコにほど近いパークレーで、さらにアメリカ第3の都市であるシカゴにおいて、大谷派の寺院は次々と産声を上げ、今日に至っています。そして遂には東海岸に到達し、ニューヨークにおいても、開教の試みが始まっています。

アメリカ合衆国 インフォメーション

面積：914万7,000km² 人口：3億4,730万人（2025年）

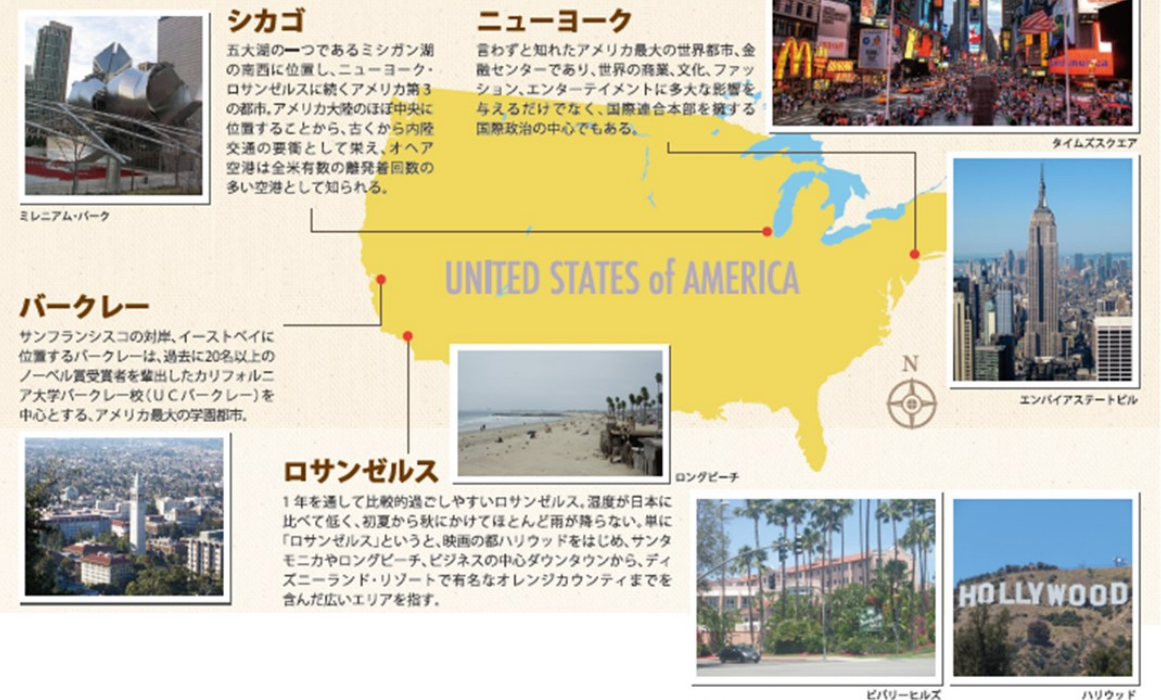
首都：ワシントン特別区

民族：白人系57.8%、ヒスパニック系18.7%、アフリカ系12.4%、アジア系約6%、その他約5.1%（2020年）

言語：英語82.1%、スペイン語10.7%、他

宗教：キリスト教（プロテスタント48%、カトリック23%）ユダヤ教2.1%、他

通貨：ドル（1ドル＝約157円 2025年12月現在）



ロサンゼルス インフォメーション

面積：1万2,310km² 人口：1,001万人（2020年）

民族：ヒスパニック系48%、白人系25.6%、アジア系14.7%、アフリカ系7.6%、その他約4%（2020年）

時差：マイナス17時間（サマータイム時 マイナス16時間）

ロサンゼルス別院



1930年代のロサンゼルス別院

ロサンゼルス別院の源流は、1904（明治37）年、当時浄土真宗本願寺派の開教使だった泉田準城氏が、ロサンゼルスに日本人有志の懇請に応じて興した「羅府仏教会」にその成り立ちを見ることができます。この地で初めての仏教寺院として、当初は各宗共通の仏教会としてスタートした羅府仏教会ですが、その後様々な経過を経る中で、1920（大正9）年に泉田氏の請願により大谷派の布教所となり、翌年ロサンゼルス別院が新設されるに至りました。その後、青年会や婦人会の発足、日曜学校や保育所を設ける等、初代泉田輪番の献身的な布教活動により、日系社会の発展とともにその活動範囲を広げていったのです。

しかし、第2次世界大戦が勃発すると、12万人以上の日系人が全米10カ所に設けられた強制収容所に送られる事態となり、別院も閉鎖を余儀なくされてしまいます。終戦直後は、収容所からの帰還者に宿泊所として別院を開放するなどの積極的な支援が行われ、別院は日系社会の復興に大きな役割を果たしました。

やがて日系人の生活が安定してくると、開教使を中心に別院を本格的な布教の道場すべく機運が高まってきます。おりしも世代交替により、日系2世・3世が日系社会の中心となりつつありました。日本で教育を受けた1世と異なり、現地で生まれ育ち、英語を母国語とするこの世代に、どのようにお念仏の教えを伝えていくことができるのか、ここに本格的な、英語による布教の時代が到来することになったのです。その後、英語による法要儀式が確立するとともに、仏青やボーイスカウト、保育園、合唱団などの多くの所属団体を結成し、別院の活動はより活発なものになっていきました。



宗祖親鸞聖人750回御遠忌御遠忌法要



マンザナーの強制収容所慰霊碑

北米開教区のあゆみ

- 1904年 …… 羅府仏教会発足（現在のロサンゼルス別院）
- 1921年 …… **ロサンゼルス別院建立**
- 1926年 …… パークレー市の日本人公民館を会場にパークレー仏教会発足
- 1938年 …… パークレー東本願寺建立
- 1944年 …… シカゴ仏教会発足
- 1959年 …… 東サンゲープル日系人会館にウエストコビナ仏教会が発足（現在のウエストコビナ東本願寺）
- 1973年 …… コスタメサ同朋会発足（現在のニューポートビーチ東本願寺）
- 1976年 …… ロサンゼルス別院が現在地に移転
- 1990年 …… ウエストコビナ東本願寺設立
- 1991年 …… ニューポートビーチ東本願寺建立
- 2012年 …… 北米開教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要厳修

そして1976（昭和51）年、リトル・トーキョーの再開発に伴い、ロサンゼルス別院は現在地に移転します。当時のアメリカで唯一の瓦葺の屋根を持つ仏教寺院で、庭園はロサンゼルスで最も美しい日本庭園に選ばれました。毎週のサンデーサービス（日曜礼拝）、各種学習会の他、報恩講や修正会等の年中行事、さらにバザーを兼ねたお盆法要等が行われています。2024年に設立120年を迎えたロサンゼルス別院は、北米大陸唯一の大谷派の別院として、今後ますます多様化するアメリカ社会において、本願念仏のみ教えを顕かにするという大きな役割を担っているのです。

その他の寺院については[こちら](#)をご参照ください。





ハワイ島、マウイ島、オアフ島、カウアイ島、モロカイ島、ラナイ島、ニイハウ島、カホオラウェ島の8つの島と100以上の小島からなるハワイ諸島のうち、ミッドウェー環礁を除いたすべての島が、ハワイ州に属しています。北西ハワイ諸島の北西端から南東端のハワイ島まで、全長2,400km に

及び島嶼郡です。太平洋の中央に位置し、ポリネシアの島々の中では最も北に位置しています。

夏と冬の気温差がほとんど無く、年間を通して温暖な気候の島々には「太平洋の人種の坩堝」と言われるほど、多種多様な人間が存在しています。総人口に占める日系人の割合は約20%、その他先住民であるハワイアン、白人系、東南アジア系、東アジア系、アフリカ系によって構成され、単独で過半数を超える人種が存在しない多民族社会であることが大きな特徴です。

ハワイ別院他2カ寺が位置するオアフ島は、州都・ホノルルを擁し、ハワイ州全体の7割にあたる約95万人の人々が暮らす政治・経済の中心地です。空港には、世界各国から毎年約720万人の観光客が降り立ちます。“Gathering Place”（集いの場所）という別名にふさわしく、白砂のビーチや大自然の景観、ダウンタウンの史跡等、人を惹きつける魅力は枚挙にいとまがありません。また一方、目を転じれば、太平洋の要衝としての歴史から数多くの戦跡が残され、私たちに戦争の悲劇を伝えていることも、決して忘れてはならないでしょう。

また、ビッグアイランドと呼ばれるハワイ諸島の最大の島であるハワイ島には、津波による大被害を乗り越えて今日まで護持されてきた寺院があります。さらに、カウアイ島には、世界で初めて海外に設立されたという歴史を持つ寺院も存在します

ハワイ州 インフォメーション

面積：2万8,314km² 人口：144万人（2023年）

民族：アジア系36.5%、白人系21.6%、多人種混血20.1%

ハワイ先住民系（ポリネシア系含む）10.8%、ヒスパニック系9.5%、アフリカ系1.5%（2020年）

言語：主として英語。またハワイ語の通用度も高い

宗教：キリスト教（カトリック18.2%、プロテスタント12.6%、）仏教2.5%、その他60.7%



ハワイ別院

大谷派のハワイ開教は1899（明治32）年にさかのぼります。愛知県出身の僧侶、山田見龍氏が、カウアイ島ワイメアで布教活動を行ったのが始めとされています。

ハワイ別院の草創は1916（大正5）年、ホノルル市に「東本願寺仮別院」を建立したことが起源です。その後、同じホノルル市内に寺基を移し、1922（大正11）年には堂宇が新築されて落慶法要を厳修し、「真宗大谷派東本願寺布哇（ハワイ）別院」として、初代輪番泉原寛海氏を迎えることになりました。

ハワイ開教区のあゆみ

- 1899年 …… ワイメア東本願寺建立（海外に設立された最初の寺院）
- 1916年 …… **東本願寺仮別院設立（現在のハワイ別院）**
- 1922年 …… モイリイリ布教所建立（現在のパロロ本願寺）
- 1924年 …… カネオヘ布教所建立（現在のカネオヘ東本願寺）
- 1928年 …… ヒロに東本願寺哇仏教会館建立（現在のヒロ東本願寺）
- 1960年 …… チリ沖地震による津波によってヒロ東本願寺の本堂全壊
- 1962年 …… ヒロ東本願寺本堂再建
- 1983年 …… 東本願寺ハワイ別院が現在地に移転して落慶法要厳修
- 1992年 …… ハリケーンイニキによりワイメア東本願寺全壊
- 1996年 …… ワイメア東本願寺再建
- 2016年 …… 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要
兼ハワイ別院建立百周年記念法要厳修予定

ハワイ別院に集った門徒の多くは日本からの移民でした。移民が始まったのは明治になってからですが、当時、ハワイではコーヒーや砂糖などの生産・製造が盛んだったにもかかわらず、労働者不足が深刻な問題となっており、西南戦争後のインフレ不況によって失業した多くの日本人が、仕事を求めてハワイへ渡ったのです。長時間労働を強いられ、住居も雑居を余儀なくされるなど、当時の移民の生活は過酷で、やむなくストライキを起こすこともありました。このような時代状況の中で、ハワイ別院は移民にとって精神的な拠り所として不可欠な存在になっていったのです。

しかし、このハワイにおいても戦争は暗い影を落とします。1941（昭和16）年の真珠湾攻撃により輪番、開教使はすべてアメリカ本土の強制収容所に抑留される事態となりました。

その後6年間、別院に僧侶を欠いたままハワイの人々によって護持し続けられ、終戦後の1949（昭和24）年、蓮如上人四百五十回御遠忌を厳修するに至ったのです。

その後別院の移転と老朽化の進んだ建物の再建を進めるべく、輪番・門徒をはじめ、様々な人々の尽力により、1983（昭和58）年に現在地において新別院は完成し、落慶法要が勤められて現在に至っています。

現在の別院では、高齢化した少数の日系2世と、英語世代である3世・4世、そして非日系人が集っています。日本語文化圏で育った開教使にとっては、英語圏の人々を相手に仏法を伝えていくのは、想像以上の困難が伴います。ハワイの地に真宗の教えが伝わって100年あまりを経た今、世代交代と地域社会の変化に伴った転換期の到来が叫ばれ、新たな時代・環境における別院や寺院のあり方が模索されているのです。



ハワイ別院での仏前結婚式



第10回世界同朋大会（2008年）

その他の寺院については[こちら](#)をご参照ください。



自ら海を渡り教化活動を担っている開教使の方々。
その生活の一部を紹介します。

開教使の一日

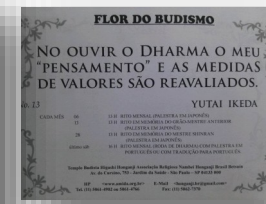
〜ブラジル編〜

平日

毎朝お仏供得御創り、本堂の荘厳をします

午前 6:30 起床

ブラジル別院内の役宅で起床。7時頃、事務所とサロン（ホールのような場所）の扉を開け、お仏供の準備をします。
その後、本堂の荘厳と「仏教の華」の準備をし、本堂と食堂の扉を開けます。「仏教の華」とは、仏教に限らず、色々な言葉を日本語とポルトガル語にしたもので、おあさじで参拝者に配布するレジュメです。



『仏教の華』
聞法は私の「考え」の物差しが
教えによって問い返されること
池田勇諦（『真宗の実践』）

午前 7:30 おあさじ

勤行、お話の順番で行います。おあさじに併せて、ご門徒の御命日のお勤めをする場合もあります。お話のはじめに「仏教の華」を皆で読みます。はじめは日本語、次にポルトガル語で読み、その後、「仏教の華」に書かれた言葉を仏教に照らし合わせるようにわかりやすく話します。



お朝事の様子

午前 8:30 朝食

ブラジル別院の朝食は、パンとコーヒーと牛乳で、昨日の夕食の残りを挟んでたべることもあります。ブラジルのコーヒーはとても苦く、砂糖をたっぷり入れるのでとても甘いです。

別院だより
『ボン・アミーゴ』



午前 9:00 デスクワーク

平日は、法事などがほとんどないため、デスクワークが中心。法名の筆耕や、のし紙の筆耕など書く仕事が多いです。その他、理事会などの会議への出席や資料のまとめ、法務に必要な備品（お香など）の発注、別院だより『ボンアミーゴ』の作成と様々です。デスクワークだけではなく、各々教学の研鑽や、法話の準備をする時間としても使う大切な時間です。

午前 12:00 昼食

別院の職員みんなで昼食。ブラジル料理はもちろん、日本料理も出てきます！



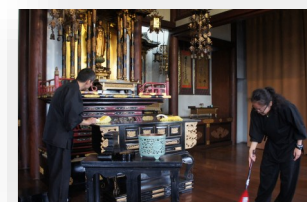
左からサラダ、フェイジョン（豆料理）、ファロップファ
（タロ芋の粉を肉や野菜と炒めた料理）、牛肉を揚げたもの

午後 5:00 お夕事

午後 6:00 夕食

午後 9:00 日本との連絡

日本との時差は12時間。日本へ連絡する場合は夜になります。主に仏具関係やお念珠の発注で業者さんへ電話することがほとんどです。



内陣清掃の様子



婦人会の皆さんによる仏華立替

毎週金曜日は、
内陣清掃と仏華の立替をします。仏華の立替は婦人会
の方々が中心になって行ってくれます。

開教使の一日

〜ブラジル編〜

週末

午前 9:00〜 法 事

法事は一時間単位で受付をし、本堂と本館の二箇所に分かれて勤めます。土日は法事の申し込みがとても多く、多いときは一日1,000人程の方がお参りされます。

お勤め後は日本語、ポルトガル語の二ヶ国語で法話をします。土曜日・日曜日はお葬式も含めると、3〜4件連続で勤めることも多く、昼食を食べるのが夕方になる場合もあり、お勤めで一日が終わることも多いです。

法事のお後はお斎の時間があり、サロンが満員になることも珍しくありません。大人も子どもも同じ時間を過ごし、皆で様々な話をする大切な時間です。

定例行事

毎月の6日は「蓮の会」、13日は先門首御命日法要、28日は宗祖親鸞聖人御命日法要を行っています。

「蓮の会」とは、ブラジル別院婦人会の皆さんが集まり、開教使にお勤めを習い、聞法に励む会です。

また、各定例法要・聞法会の後は、参加者でお茶を飲みながら歓談します。

なお、より多くの現地の方に念仏のみ教えにふれていただくため、定期的にポルトガル語のみで法話をしています。

宗祖親鸞聖人御命日定例法要



開教使の休日

開教使といっても、いつも別院の中にいるわけではありません。休みの日にはブラジルの色々なところに出かけます。日本の風景になれているとなおのことブラジルの町並みや景色が新鮮に映ります。



ブラジルのフルーツはとっても美味しく、皆たくさん食べます

市場名物のモルタデーラ!! これでもかとハムが挟まれていてかなりのボリューム!!



法事の様子。お堂は満員になります



法事後は、みんなと一緒に斎を頂きます



お勤め後の法話